

編集後記

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故を伴った未曾有の大災害となり、未だに被災地の復興はその遠い道の途上にあります。本学術調査は、震災当時日本透析医学会理事長であった秋澤忠男先生の強い指導力で発足し、震災発生から 2 年 9 か月を経てようやく報告書が完成しました。震災時の透析医療の現場で何があったのか、震災やその後の透析医療が透析患者にどのような影響を与えたのか、そして将来危惧される首都直下地震への提言をまとめ上げるという大きな目的が、秋澤前理事長からワーキンググループに課せられましたが、あるいはそれは今回の震災を経験した透析医療スタッフと患者の切なる願いだったのかもしれませんが。今回の報告書が期待されたレベルに達しているのかどうかの評価はこれからですが、ひとまず報告書作成にご尽力いただいた多くの皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

東日本大震災学術調査ワーキンググループが発足した平成 23 年 10 月頃には、すでにさまざまな震災の記録が出版されていた時期であり、本ワーキンググループが何をなすべきであるのかが最も重要な問題として討議されました。その結果、今回の震災の経験をもとに透析関連学会、団体が一枚岩になり、今後の大規模災害における透析医療展開への提言をまとめ上げることであるとの認識に達しました。さらにまとめられた提言を透析施設だけでなく、ひろく地方自治体や関連する諸団体そして世界に向けて発信し、災害下の透析医療文化のようなものを形作ることが目標となりました。そのため、本報告書は各章末の提言をまとめて提言集として報告書の前半に一括して掲げました。提言集は今回の震災における透析医療の展開の概略とともに英文化し、世界に向けて発信する予定であります。本報告書は今回の震災をまとめ、ふりかえる資料ではありますが、その本分は将来の災害への準備であると言えます。本報告書を手になされた皆様は、是非その趣旨をご理解いただき、皆様の施設や地域、団体において将来の震災への備えを行っていただければと思っております。

本報告書は日本透析医学会の統計調査結果と被災地・支援地からの報告を基に作成しました。そのため内容に若干の重複が認められますが、提言内容に齟齬はなく、御容赦いただければと思っております。また、本報告書作成中にいくつかの団体は名称変更がなされました。団体名や役職などその部位ごとに内容にふさわしい名称に修正しました。

最後になりますが、東日本大震災で犠牲になられた多くの方々を悼み、そして今も癒えぬ傷を抱えた皆様の気持ちを思い、震災を一致団結して乗り越えた皆様と透析患者の勇気を称えて本報告書を締めくくりたいと思います。

平成 25 年 12 月

一般社団法人日本透析医学会
危機管理委員会委員長
東日本大震災学術調査ワーキンググループ グループ長
政金生人（医療法人社団清永会矢吹病院）

東日本大震災学術調査報告書

—災害時透析医療展開への提言—

定 価 2,000 円 (税込)

発 行 平成 25 年 12 月 10 日 第 1 版第 1 刷
編 著 一般社団法人日本透析医学会
東日本大震災学術調査ワーキンググループ
〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-38-21 アラミドビル 2F
電話 03-5689-0260 FAX 03-5689-0261

製 作 医学図書出版株式会社
〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-29-8 大田ビル
電話 03-3811-8210 FAX 03-3811-8236

* 本書の著作権は一切学会が所有しています。したがって当学会の許諾を得ないで本書を転載刊行することを禁じます。